臨床心理基礎実習Ⅰ

必修　　1単位

黒田　美保・稲垣　綾子・綾部　直子

1. 授業の概要（ねらい）

心理臨床家として心理療法や対人援助を行う上で、単に臨床心理学関連の理論や知識を得るのみではなく、体験学習を通してその理念や具体的技法を総合的に体得する必要がある。実際の臨床心理学的な対人援助は、基本的理論や知識を背景としながらも、個別性や関係性を重視しながら多様に展開していく。

本大学院においては、心理臨床の実践家を育てるために、「臨床心理基礎実習」と「臨床心理実習」を重要な必修カリキュラムとして位置付けている。この「臨床心理基礎実習」は修士1年全員を対象とするものである。この実習を通じて、心理療法や対人援助の基本的考え方や技法の習得を目指す。これらの習得によって、実習生として実際にクライエントを担当し、臨床心理学的対応が可能となるレベルを目指す。

2. 授業の到達目標

この基礎実習の最終目標は、附属の心理臨床センターなどの実習機関において、実際にクライエントへ対応できるレベルまで技能の向上を行うことである。この目標は当授業および実習に出席し毎回体験を積み重ねることで達成可能となるので、欠席しないようにコンディションを整えることが重要である。

期末にはOSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）を行い，実習前に最低限身につけておくべき臨床的ふるまいについての評価・指導を行う。心理臨床センターにおける実習に関しては，教員による評価をもって一定の基準を満たした者とする。

3. 成績評価の方法および基準

ディスカッション・発表・ロールプレイなどのアクティビティへの参加度40%，授業態度20%、センター実習10%、課題30%

4. 教科書・参考文献

教科書

土居健郎著　『新訂　方法としての面接』　医学書院
鑪幹八郎著　　『試行カウンセリング』　誠信書房
熊倉伸宏著　『面接法』　　新興医学出版社
平木典子著　『カウンセリングとは何か』　朝日選書

5. 準備学修の内容

実習形式の授業であるが，その準備・事後学修として種々の課題が呈示される。期限を守ることは勿論，関連文献に目を通すなどして，十分に取り組むこと。

6. その他履修上の注意事項

真剣に学ぼうとしている他の院生の邪魔をしないこと（私語，携帯電話，遅刻・欠席など）。主体的・創造的な参加が望まれる。

心理臨床家になるためには、単に授業に出席するだけではまったく不十分である。カリキュラムはあくまで最低限の考え方や体験を提供するものであり、それらをどのように深めていくか個人的に修練が必要となる。

心理臨床場面は常に未知の体験の連続である。知らないことへの探究心や研究の姿勢を持つことが重要となる。臨床心理学の研究のマインドを保ちながら、その基本となる姿勢をこの実習で身につけてほしい。

なお、OSCEの実施にあたり、外部講師を予定している。

この科目は臨床心理学専攻に特化した科目である。

7. 授業内容

【第1回】　・授業ガイダンス
　　・心理臨床家になるということ（臨床家の発達と適性ついて）
　　・RP：初めてのカウンセリング体験
【第2回】　・ロールシャッハテスト体験
【第3回】　・心理臨床センターについて
　　・心理臨床センター見学
【第4回】　・方法としての面接，関与しながらの観察，わかるということ（Ch.1-3）
　　・応答技法RP：あいづち，反射，感情の明瞭化，非指示的リード，質問，自己開示
【第5回】　・面接の進め方，ストーリーを読む，「見立て」（Ch.4-6）
　　・応答技法RP：開かれた質問，是認，リフレクティブ・リスニング，サマライズ1
【第6回】　・応答技法RP：開かれた質問，是認，リフレクティブ・リスニング，サマライズ2
　　・ロールプレイ実習ガイダンス（インテーク，初回面接，事例・ロールづくり）
【第7回】　・プレイセラピーRP
　　・センターケースの接遇（準備・受付・終了後まで）
【第8回】　・ロールプレイ実習（第一回面接）
【第9回】　・ロールプレイ実習（GSV1：前半グループ）
【第10回】　・ロールプレイ実習（GSV2：後半グループ）
【第11回】　・ロールプレイ実習（第二回面接）
【第12回】　・ロールプレイ実習（GSV3：後半グループ）
【第13回】　・ロールプレイ実習（GSV4：前半グループ）
【第14回】　・心理臨床センター・運営実習ガイダンス
　　・OSCE（客観的臨床能力試験）による評価・指導1
【第15回】　・OSCE（客観的臨床能力試験）による評価・指導2
　　・まとめ